

子どもの被曝「年 20 ミリシーベルト」を撤回させよう

福島の子ども達を放射能から守ろう

原子力発電の安全神話崩壊・・・

3月11日東北地方を襲った地震と津波は、3万人に達する死者行方不明者を出しただけでなく、東京電力福島第一原発の事故によって農民は農地を奪われ、漁民は漁場を奪われ、多くの人々は生活とふるさとを奪われました。放射能汚染は今も收拾のめどがたつていません。

政府は「直ちに影響はない」と繰り返すばかりです。一方で汚染地域は30km 圏外にも広がり、汚染水の放出によって海洋の汚染も拡大しています。野菜や魚の出荷停止だけでなく、母乳からも放射能が検出されました。

爆発し骨組みだけになった3号炉



福島の子どもたちは今・・・



放射線管理区域のマーク

文部科学省は福島県内の学校の校庭・校舎の利用基準として20ミリシーベルト以内なら放射線を浴びてもいいとの基準を通達し、新学期の開校を強行しました。この値は労働基準法で18歳未満の作業を禁止している「放射線管理区域」の約4倍に相当します。原発労働者が白血病を発症し労災認定を受けている線量に匹敵し、ドイツの原発労働者に適用される最大線量に相当するものです。さらにこの基準は、大人よりはるかに高い子どもの感受性を考慮にいれておらず、また、内部被曝を全く考慮していません。

政府、文部省、安全委に「子ども 20 ミリ撤回」を要求していきましょう。署名に協力ください。

原発を停止させ、自然エネルギー社会へ・・・

地震と津波の危険が強い浜岡原発は停止することになりました。しかし私達の居住する関西の原発は稼働を続け、それどころか中電、東電の支援のためと称して停止中原発の再開さえもくろまれています。

若狭の「老朽化」した原発は大丈夫なのでしょうか？ 原発なしではわれわれは生活できないのでしょうか？ 資源のない日本には原発は必要というのは本当でしょうか？ 自然エネルギー社会は夢の夢なのでしょうか？ 私たちは、こんな素朴な疑問を考えながら、原発のない社会を目指していきたいと考えています。「脱原発と放射能汚染を考える吹田の会」にぜひ参加してください。

福島第一原発の重大事故の責任をとり
政府は脱原発への転換を速やかに決定すること
自然エネルギーに転換すること、生命と生活、環境、自然を守る

「さよなら原発署名」に協力ください。

全国 95 団体のよびかけ：署名用紙は Down Load できます → <http://www.jca.apc.org/mihama/>



子ども「20 ミリシーベルト」基準の即時撤回および

被曝量の最小化のための措置を求める緊急要請＜第2弾＞署名

呼びかけ団体：グリーン・アクション、グリーンピース・ジャパン、原子力資料情報室、福島老朽原発を考える会、
美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会、国際環境 NGO FoE Japan

脱原発・放射能汚染を考える吹田の会

(連絡先：nonukes.suita@gmail.com)

資料 福島原発事故の原因は津波だけでない！

福島第一原発の事故について、東京電力と政府は、「想定外の津波によって電源が喪失した」ことにより緊急炉心冷却系の注水不能となったことを原因としている。公然とは主張はされていないが、原発は正常に「自動停止」した。＝原発本体は正常であったとして、問題を予備電源対策に矮小化して、関電の原発に予備発電機を追加したとか電源車を配置したことで「対策済み」のように主張している。

1号炉の原子炉容器の圧力が地震直後に急激に低下したこと等から、原子炉圧力容器の配管系統が地震で破損し、電源問題の前に「冷却材喪失」となったのではないかとの指摘に対して、東電と政府は炉心の水位が充分高く原子炉容器は破損していないと主張してきた。

しかし、今回の水棺作業で判明したのは、1号炉の水位はほとんどなく、燃料棒が全面的に溶融し、原子炉容器が破損し、格納容器も破損していることである。「予備電源」だけの問題でなく、原発の本体である原子炉容器と格納容器、配管系統そのものが地震で破壊された可能性を示唆している。

詳細は「世界」5月号の田中光彦氏の「福島第一原発事故はけっして想定外でない」をお読みください。

資料 関電の原発は老朽化して事故だらけ

関電の原発 11 基のうち定検停止が 5 基（右以外に大飯 3 号）

(1986) 変電所への落雷で美浜原発が正常な停止をせず暴走の危機

(1991) 美浜原発で蒸気発生器細管の破断事故

(1997) 敦賀「ふげん」でトリチウム放出事故

(1998) 関電プルサーマルデータ偽造問題が露見

(1999) 敦賀原発で配管の亀裂から 1 次冷却水の流失

(2004) 美浜 3 号機の 2 次系配管破断事故（5 名が死亡）

原発名	運転開始	電力会社	運転
敦賀 1 号	1970/03/14	日本原電	停止中
美浜 1 号	1970/11/28	関西電力	定検中
美浜 2 号	1972/07/25	関西電力	運転中
高浜 1 号	1974/11/14	関西電力	定検中
高浜 2 号	1978/11/14	関西電力	運転中
美浜 3 号	1976/12/01	関西電力	定検中
大飯 1 号	1979/03/27	関西電力	調整運転
大飯 2 号	1979/12/05	関西電力	運転中

資料 原子力発電がなくなっても

関電は「すでに原発の発電量は 30%をこえて、やめることが出来ない」と宣伝し、今回の事故でも東電は「計画停電」を演じて「電力不足の危機」をあおりました。

すべての原発を停止させても、火力や水力等の発電をフルに働かすことで、ごく一部の時間を除いて、ほとんどは供給可能であるといわれています。家庭での節電だけでなく、産業界の電力削減によって対応は充分可能です。

地熱発電や風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用で原発を不要とすることも可能です。

エネルギー問題については「地球温暖化、人類滅亡のシナリオは回避できるか」(扶桑社新書/田中優)などを参照ください

